慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	高村象平名誉教授年譜
Sub Title	A chronology of Prof. Shohei Takamura
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1971
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.64, No.8 (1971. 8) ,p.776(262)- 778(264)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	高村象平教授退任記念特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19710801-0262

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

高村象平名誉教授年譜

明治38年8月2日　東京市本所区小梅瓦町47番地（現在東京都墨田区押上1－1－2）において高村国策（長野県更埴市稲荷山町出身）と，はな（旧姓久保，実家は東京都文京区本郷2丁目）の長男として出生

明治44年　本郷区東竹町7番地（現在文京区本郷2－7－1）に転居

明治45年4月　東京市立真砂尋常小学校に入学

明治45年7月　東京市立元町尋常小学校の新築成り，転学

大正7年3月　同校卒業

大正7年4月　東京開成中学校入学

大正12年3月　同校卒業

大正12年4月　慶応義塾大学経済学部予科に入学

大正12年9月　関東大震災により自宅焼失し，天現寺の慶応義塾寄宿舎に入寮

大正15年4月　経済学部本科に進み，寄宿舎を退寮，本郷の旧宅跡に居住

大正15年9月　母はなは，大震災後居を移した長野県更級郡稲荷山町にて急逝

昭和4年3月　慶応義塾大学経済学部卒業。卒業論文は「クライミング・ボーイ研究――英蘭児童労働史の一齣」を故野村兼太郎教授に提出

昭和4年4月　慶応義塾大学経済学部助手となる。爾後3年余の間イギリス児童労働史，ついで歴史哲学を研究課題とし，昭和7年秋よりドイツ・ハンザの研究に移る

昭和5年4月　経済学部予科講師（昭和10年3月まで予科3年の経済原論を担当）。

昭和5年より10年に至る間　ピグウ著厚生経済学第3版を同僚の故小島栄次・故小高泰雄両君と翻訳に従事

昭和8年4月　浅田薫（東京市牛込区富久町浅田良逸三女）と結婚

昭和10年3月　経済史研究のため義塾より欧米に派遣。往航は故小高泰雄君や北里研究所員滝田順吾君と同船

昭和10年11月　ベルリン大学においてフリッツ・レーリヒ教授に師事。翌11年4月ミュンヘン大学のヤーコブ・シュトリーダー教授に就き，同年11月再度ベルリン大学にてレーリヒ教授の薫陶を受く。この間ベルリン・オリンピック開催

昭和11年　ハンザ史学会及び経済史学会（イギリス）の終身会員となる

昭和12年3月　アメリカ合衆国を経由して帰国。帰航も故小高泰雄君と同船

昭和12年4月　慶大経済学部助教授（近世経済史，研究会担当）

昭和12年12月　長男誠一出生

昭和14年4月　慶大経済学部教授（一般経済史，古代中世経済史，英語及び独語経済学講読，研究会担当）

昭和14年10月　鎌倉市長谷大谷戸1395に転居

昭和16年4月　社会経済史学会編集委員（昭和19年12月まで）

昭和16年8月　長女信子出生

昭和17年4月　慶応義塾経済史学会副会長（昭和21年まで）

昭和18年5月　社会経済史学会理事（昭和45年12月まで）。昭和46年1月同学会顧問（現在）

昭和18年9月　横浜商工会議所史編集事務嘱託（昭和20年4月まで）

昭和20年2月　父国策は長野県更級郡稲荷山町にて死去

昭和20年3月　空襲により東京都本郷区本郷1丁目の家屋焼失

昭和20年4月　学術研究会議第16部第7研究班員として近世初期以降第一次世界大戦前に至る欧州戦時経済

及び戦後経営の概観につき研究を委嘱さる（昭和21年3月まで）

昭和23年6月　土地制度史学会理事（昭和38年9月まで），昭和38年10月同学会評議員（昭和40年10月まで）

昭和24年4月　中央労働学園大学社会学部講師（経済史担当，昭和26年8月まで）

昭和24年4月　近世庶民史料調査委員会委員（昭和28年3月まで）

昭和25年9月　北海道大学法経学部講師（西洋経済史担当，昭和26年3月まで）

昭和25年11月　地方史研究協議会常任委員（昭和29年10月まで）

昭和26年4月　慶大大学院経済学研究科教授並びに文学研究科教授兼担（西洋経済史特殊研究，演習担当，昭和46年3月まで）

昭和26年4月　東京大学経済学部講師（西洋中世経済史担当，昭和26年9月まで）

昭和26年5月　林野庁林業発達史調査会編集委員長（昭和30年10月まで）

昭和26年7月　文部省史料館専門員（昭和35年7月まで）

昭和26年8月　日本歴史学協会委員（昭和29年3月まで）

昭和27年8月　茅ヶ崎市茅ヶ崎12495（現在中海岸4―12―45）に転居

昭和28年4月　早稲田大学大学院経済学研究科講師（当初アメリカ経済史及びドイツ経済史担当，その後西洋経済史特論担当，現任）

昭和28年4月　青山学院大学大学院経済学研究科講師（経済史特論及び商業史特論担当，昭和35年8月まで）

昭和28年11月　「ドイツ・ハンザ研究」により慶応義塾賞を受く

昭和29年5月　日本塩業協会日本塩業史編纂主任（昭和33年3月まで）

昭和30年11月　慶大経済学部長及び大学院経済学研究科委員長。慶応義塾経済学会会長を兼任（昭和32年9月まで）

昭和32，34，36，38，40年度　新潟大学人文学部講師（外国経済史担当）

昭和33年4月　慶応義塾図書館長兼任（昭和35年7月まで）

昭和33年5月　農林省林業試験場研究顧問（昭和33年7月まで）

昭和33年6月　文部省教科用図書検定調査審議会委員（昭和36年10月まで）

昭和33年6月　文部省民間学術研究機関助成協議会委員（昭和35年5月まで）

昭和34年4月　文部省学術奨励審議会委員（昭和36年3月まで）

昭和35年3月　学位請求論文「ドイツ・ハンザの研究」により経済学博士の学位を受く

昭和35，36，37，38，39，40，41，42年度　外務省公務員採用上級試験委員

昭和35年6月　慶応義塾長（学校法人慶応義塾理事長）兼慶応義塾大学長（昭和40年4月まで）

昭和35年7月　財団法人日本科学技術振興財団理事（昭和40年6月まで）

昭和35年11月　日本育英会評議員（昭和43年11月まで）

昭和36年2月　社団法人日本私立大学連盟会長（昭和40年5月まで）

昭和36年3月　長男誠一岐阜大学農学部林学科卒業，東海パルプ株式会社に就職

昭和36年4月　文部省学徒厚生審議会委員（昭和38年4月まで）

昭和36年4月　文部省大学基準等研究協議会委員（昭和40年3月まで）

昭和36年5月　財団法人大学基準協会理事（現任），昭和40年4月同協会副会長（現任）

昭和36年7月　文部省学校法人運営調査会委員（昭和38年6月まで）

昭和37年9月　文化勲章受章者選考委員，文化功労者選考審査会委員

昭和37年10月　文部省大学設置審議会委員（昭和44年4月まで）

昭和37年10月　国際大学協会第4回総会東京組織委員会委員（昭和40年5月まで）

昭和37年10月　財団法人東洋文庫評議員（昭和40年5月まで）

昭和38年5月　文部省中央教育審議会委員（昭和44年6月まで）

昭和38年9月　財団法人松永記念科学振興財団評議員（現任）

昭和38年9月　第二回日米文化教育合同会議日本側代表の一員として渡米（昭和38年11月まで）

高村象平名誉教授年譜

昭和38年11月	財団法人学徒援護会評議員（現任）
昭和39年２月	財団法人日本学術振興会評議員（昭和42年３月まで）
昭和39年２月	財団法人交詢社常議員（現任）
昭和39年３月	長女信子慶大文学部国文学専攻卒業
昭和39年４月	財団法人大学セミナーハウス理事，昭和43年６月同法人評議員会議長，昭和45年４月同法人理事長（昭和46年５月まで）
昭和39年５月	財団法人能力開発研究所評議員（昭和41年９月まで）
昭和39年６月	財団法人アメリカ研究振興会理事（現任）
昭和39年８月	1967年ユニバーシアード大会招致委員会委員（昭和40年５月まで）
昭和39年８月	財団法人サンケイ・スカラシップ副会長（昭和40年５月まで）
昭和39年９月	日本国連協会神奈川県本部理事（昭和40年５月まで）
昭和39年10月	読売新聞育英奨学会理事（昭和40年５月まで）
昭和39年10月	財団法人全国大学保健管理協会理事（昭和40年６月まで）
昭和39年11月	文部省私立大学審議会長（昭和41年11月まで）
昭和39年11月	財団法人福沢記念育林会理事長（現任）
昭和39年12月	全国大学教授連合会長（昭和45年６月まで）
昭和40年６月	慶応義塾学事顧問（現任）
昭和40年６月	財団法人松永記念館理事（現任）
昭和40年６月	文部省大学学術局経済学商学視学委員会委員長（現任）
昭和40年６月	財団法人三井文庫評議員（現任）
昭和40年６月	財団法人日伊協会評議員（現任）
昭和40年11月	慶大言語文化研究所所員兼任（昭和46年３月まで）
昭和40年11月	千代田生命保険相互会社社員総代（現任）
昭和40年12月	財団法人日本生産性本部経営アカデミー運営委員会委員（昭和44年11月まで）
昭和40年12月	財団法人古河記念基金評議員（現任）
昭和41年１月	アメリカ学会評議員（現任）
昭和41年５月	財団法人慶応がんセンター評議員（現任）
昭和41年６月	財団法人海事産業研究所評議員（現在）
昭和42年３月	日本古文書学会評議員（現任）
昭和43年５月	長男誠一は多根光佐子（島根県八東郡宍道町多根一義次女，慶大文学部社会学専攻卒業）と結婚。
昭和43年10月	神奈川県教育委員会委員，昭和45年10月同委員長職務代理者（現任）
昭和43年11月	大学問題懇談会委員（現任）
昭和44年１月	神奈川県美術展委員会委員長（現任）
昭和44年９月	学校法人開成学園理事（現任）
昭和44年10月	金沢大学法文学部講師（西洋経済史担当，現任）
昭和44年10月	長女信子は伊藤直明（東京都立大学工学部建築学科助教授）に嫁す
昭和45年４月	大阪学院大学大学院商学研究科客員教授（経済史特殊研究担当，現任）
昭和45年４月	学校法人北里学園理事（現任）
昭和45年４月	神奈川県会史編集委員会委員（現任）
昭和45年７月	財団法人神奈川県美術奨学会理事（現任）
昭和46年１月	講書始の儀において「ドイツ・ハンザの経済史的意義」を進講
昭和46年４月	慶応義塾大学名誉教授
昭和46年４月	慶大大学院経済学研究科講師（西洋経済史特殊研究，演習担当，現任）　以上

高村象平名誉教授著作目録*

著　書

「資本主義第三期」世界経済問題講座　第１部世界経済総論　春秋社　昭和８年
「西洋経済史」慶応義塾大学講座経済学　慶応出版社　昭和13年
「近代技術史」　慶応出版社　昭和15年
「日葡交通史」　国際交通文化協会　昭和17年
「一般経済史」慶応義塾大学講座経済学　慶応出版社　昭和19年
「一般経済史　古代・中世」　慶応出版社　昭和23年
「資本主義の歴史的問題」　泉文堂　昭和23年
「一般経済史」慶応義塾大学通信教育教材　第１～３分冊　昭和23年，第４～６分冊　昭和24年
「経済史随想」　塙書房　昭和26年
「アメリカ資本主義発達史――商業資本の展開と産業資本の確立――」　金星堂　昭和27年
「西洋経済史」　（有斐閣全書）昭和29年，新版　昭和46年
「一般経済史」　慶応通信　昭和32年
「ドイツ中世都市」　一条書店　昭和34年
「ドイツ・ハンザの研究」慶応義塾経済学会経済学研究叢書第１冊　日本評論新社　昭和34年
「五年のあしあと」　慶応通信　昭和40年

共　書

「日本における経済史学の発達」（小松芳喬氏と共著）人文科学委員会編　人文科学研究叢書第２編　要書房　昭和24年
「西洋経済史　上巻」（増田四郎・宮下孝吉・小松芳喬・五島茂氏と共著）　有斐閣　昭和30年
「封建制と資本制」（野村博士還暦記念論文集），（小松芳喬氏他と共編）　有斐閣　昭和31年
「社会経済史大系　全10巻」（増田四郎・小松芳喬・矢口孝次郎氏と共編）　弘文堂　昭和35年
「西洋経済史」（経済学全集３）（小松芳喬氏と共編）　世界書院　昭和40年

編　纂

「日本塩業史」（正・続２巻）　日本専売公社　昭和33年
「日本林業発達史　上巻　――明治以降の展開過程――」　林野庁　昭和35年

訳　書

「ピグウ　厚生経済学」第１分冊（小島栄次氏と共訳）　高原書店　昭和９年
「アンリ・ピレンヌ　中世ヨーロッパ経済史」（増田四郎・小松芳喬・松田智雄・高橋幸八郎・五島茂氏と共訳）一条書店　昭和31年

---

* 論文のうち，そののち著書に再録されたものは，このリストから除外してある。